



ビーチクリーンの取り組み（環境省・小笠原村ほか）

- ◆ 父島では環境省・小笠原村・小笠原クラブBOISSの共催で、多くの村民や関係機関に協力いただき、洲崎象鼻崎で漂着ゴミを回収しました。また、母島では母島漁協に協力いただき、母島属島の平島で漂着ごみの回収を行いました。
  - ◆ 今回の清掃活動により、父島・母島合計で約12トンのゴミが集まりました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました！！
- ※「海ごみゼロウィーク」：5月30日（ごみゼロの日）から6月8日（世界海洋デー）前後の期間を「海ごみゼロウィーク」と定め、日本全体が連帯し、海洋ごみ削減のためのアクションを一斉に行うものです。



地域の  
取り組み

小笠原海洋センター ウミガメの卵の保護活動

- ◆ 小笠原海洋センターではアオウミガメの生態を調査すると共に、種の繁栄をサポートするための保全活動を行っております。
- ◆ 小笠原諸島はアオウミガメにとって日本で最大の繁殖地です。毎年、小笠原諸島内の海岸でアオウミガメの産卵調査を行い、産卵巣の数を数えています。調査する海岸は30ヶ所以上あり、母島や聳島にも調査に出向きます。
- ◆ 父島の中心街に一番近い大村海岸は、小笠原諸島で最も産卵の多い海岸の一つで、小笠原のアオウミガメの繁殖にとって重要な海岸です。
- ◆ ウミガメの赤ちゃん達は明るい方へ向かう習性があり、ふ化した巣穴から「脱出」すると、海に反射するわずかな光を目当てに海に向かいます。しかし大村海岸では海よりも明るい人工的な光が沢山あるため、多くの赤ちゃんガメが海に帰れずに命を落としてしまいます。
- ◆ そのため小笠原海洋センターでは、大村海岸で産卵された卵をふ化前に保護し、センター内にある人工ふ化場でふ化させて、赤ちゃんガメ達を暗い海で放流する活動を行っております。



世界遺産の保全に係る各種対策・取り組み ～陸編～

オガサワラシジミの保全に向けた取組（環境省・東京都）

- ◆ 昨年9月から確認がなく、本年2月に行った食痕調査でも痕跡が確認できませんでしたが、6月に野生個体の確認報告がありました。
- ◆ 依然、厳しい状況に変わりはありませんが、現在できる以下の取組を進めています。



- ①飼育下にある個体群を安定的に維持するため、危険分散の飼育を新宿御苑で開始します。
- ②エサ木のオオバシムムラサキの栽培管理を母島船見台で継続し、新宿御苑でも栽培を進めます。
- ③飛翔力や繁殖力のある飼育個体を維持していくため、ファウンダーを捕獲するための体制を整備していきます。



◆ この各取組状況は今後の本紙や村民だよりで発信していきます！

ノヤギ、ネズミ対策の進捗報告（東京都）

①ノヤギ排除状況

- ◆ 東京都のノヤギ排除事業では、今年度248頭の捕獲を事業目標としています。6月から8月にかけて、銃器59頭、罠33頭の計92頭を捕獲しています（8/20現在）。



②嫁島ネズミ駆除状況

- ◆ 昨年度の嫁島での全島ネズミ駆除に続き、7月より嫁島において殺鼠剤の全島散布を開始しました。作業は複数回にわたって実施し、10月に完了する予定です。

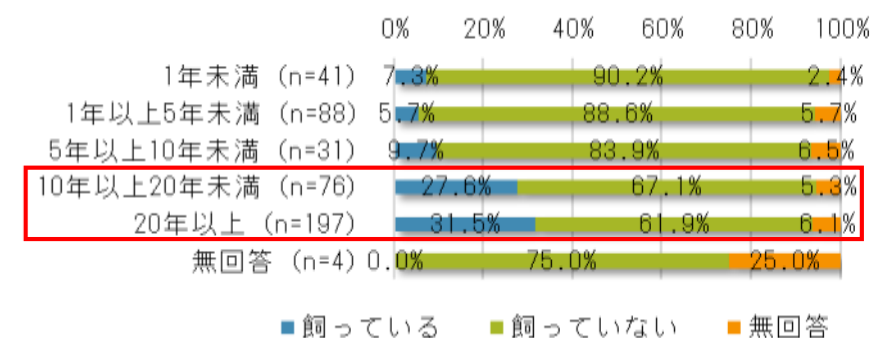
③南島ネズミ生息状況

- ◆ 平成30年8月以降ネズミの生息は確認されておりませんでした。今年度7月に生息が再確認されました。緊急対応として、8月にネズミが確認された地点付近において殺鼠剤を散布したほか、今年度の入島禁止期間中に殺鼠剤の全島散布を実施する予定です。

小笠原のペットに関するアンケートの結果概要（小笠原村）

- ◆ 村では、愛玩動物等の適正な管理に関する条例づくりを進める中で村内のペット飼養状況を把握するため、全世帯を対象に2018年9～10月にアンケートを実施し、437件の回答（回答率28.6%）がありました。詳細な結果は、小笠原村環境課のホームページをご覧ください。

【現在のペット飼養状況×居住年数】



イベント開催予告

マイマイイベント

9月29日（日）に世界遺産センターでマイマイイベントを開催します！飼育室見学やビンゴ大会他、遊びながらマイマイについて学べる内容盛りだくさんとなっているので、マイマイの世界を感じに遺産センターへCome on！  
（環境省）

ハワイ大 Cowie教授の講演会

世界の陸産貝類研究の第一人者、ハワイ大学のRobert H. Cowie教授が来島されます。来島される10月17日～20日の間で、講演会を開催する予定です。詳細は決まり次第、村民だよりや島内掲示板でお知らせします。ぜひお越しください！  
（環境省）

◆お問い合わせ先◆

本チラシに関するお問い合わせは、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

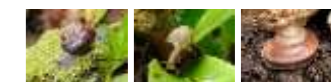
環境省小笠原自然保護官事務所（世界遺産センター）  
Tel/Fax：04998-2-7174/7175  
林野庁小笠原諸島森林生態系保全センター  
Tel/Fax：04998-2-3403/2650

東京都小笠原支庁  
Tel/Fax：04998-2-2167/2302  
小笠原村環境課  
Tel/Fax：04998-2-3111/3222

世界遺産に関する情報は、下記のホームページをご覧ください。  
小笠原自然情報センターHP：<http://ogasawara-info.jp/>

母島の陸産貝類の試験飼育に向けた取組（環境省）

- ◆ 母島の陸産貝類（マイマイ）の保全のため、飼育技術を確立するための試験を開始しました。母島の石門、乳房山などのヌノメカタマイマイ、ヒシカタマイマイ、カグラカタマイマイの3種です。
- ◆ これら母島のマイマイは、何を好んで食べるのか、どんな環境だと繁殖をするのかなどを、これから確認していきます。



食べものの嗜好性調査

# 各種イベント、ボランティア活動等を行いました！

## 村民参加の森づくりプロジェクト

小笠原村

### ◆ オガグワの森

- 2月21日、小笠原小学校4年生の総合的な学習の時間を使って、森歩き体験を行いました。児童たちには、固有種も外来種も活かして村民で森づくりに取り組んでいること、オガグワが貴重なこと、自然を保全する意識をもつことを、今回の体験を通して学んでもらいました。
- 5月6日、森づくり体験会を開催し、スタッフを含め29名に参加いただきました。オガグワ測り隊（苗の計測）、色々つくり隊（丸太イスづくり）、インスタ映え隊（入り口の片付け）の働きにより、無事にオガグワの森に自由に入出りできるようになりました。



小学生向け森歩き体験の様子



作業の最後に記念撮影（父）



作業の最後に記念撮影（母）



急斜面に追加植栽

### ◆ 母島の森

- 3月21日、森づくり体験会を開催し、スタッフを含め15名に参加いただきました。オガグワ苗まわりの草刈り、苗の計測を行い、最後に子どもたちを中心に丸太イスづくりを行いました。
- 6月8日、植樹会を開催し、昨年の植樹会で植えきれなかったオガグワの苗26株とオオハマボウの苗2株などを、梅雨の時期をねらって昨年の植栽地の空いたところに植栽しました。スタッフを含め23名に参加いただきました。

## 遺産センター夏休み企画

環境省

### ◆ 知的好奇心をくすぐるシリーズ第2弾【小笠原の昆虫展】

夏と言えば、昆虫！！ということで、世界遺産センターでは8月に【小笠原の昆虫展】を開催しました。小笠原の固有種から身近な種、新種や昆虫の進化についての展示を行いました。

夏休み企画・おがさわら昆虫3択クイズ昆虫展にコラボするかたちで、世界遺産センターオリジナルグッズがもらえる、おがさわら昆虫3択クイズも併せて開催しました。「難しかったけど楽しかった！」「とても勉強になりました！」などのコメントを多数いただき、令和最初の夏休み企画は大盛況のうちに幕を降ろしました。



小笠原の昆虫展



## 都立瑞穂農芸高校外来種駆除ボランティア

林野庁

令和元年8月8日、コペペ海岸の指定ルートにて瑞穂農芸高校の生徒・先生合わせて30名と共にギンネム・ホナガソウの抜取り作業を行いました。

当日は、小笠原の固有種についての説明をし、学習も兼ねてもらいながらボランティア作業を実施。

皆さんの協力のおかげで、外来種が繁茂していたルート上が綺麗になりました。



根気よく外来種を減らしていき、徐々に在来植生へ戻していく事を目指しています。



## オガグワの集い

小笠原村、東京都、林野庁、環境省

- 世界自然遺産に登録されて8年、令和初めての夏の夜、毎年実施してきた「世界自然遺産に関する意見交換会」において、今年は「オガサワラグワ」をテーマとした関係機関・団体の講演・発表・意見交換を行いました。関係者を含めて母島36名、父島62名の方に参加いただきました。

### 講演・発表

#### ■ オガグワ紹介

- 都レンジャーによる楽しい話（父島）
- 都レンジャーのオガサワラグワ探訪（母島）

#### ■ 林木育種センターによる講演

「オガサワラグワの生育域外保存と野生復帰」（センター紹介、保存個体の里帰りと里親計画、苗の培養実演）



野生研究発表のオープニングは歌で開始

#### ■ 小笠原野生生物研究会の発表（父島）

オガサワラグワクローン苗順化育苗報告

#### ■ 行政機関による発表

- オガサワラグワの取組について（東京都）
- オガサワラグワの保全（林野庁）～国有林での取組と経緯～
- オガグワが「種の保存法」の国内希少種に入らなかったワケ（環境省）
- オガグワの森／母島の森これまでにこれから（小笠原村）



林木育種センターによる苗の培養実演



おおよそ1/2スケールのオガグワの切り株写真



取組紹介のパネル展示（父島）

## 意見交換「おがぐわミーティング」

### ■ おがぐわマップづくり

- ⇒山の中、街の中、どこにオガグワ（木、伐り株、材でもなんでも）がありますか？
- ⇒そのオガグワの思い出、印象はありますか？



### ■ おがぐわPR作戦

- ⇒島民、内地、来島者に向けて どのようにPRするか「ひろめ方」アイデア募集！
- ⇒オガグワを守るため、自分たちにできることは何だろう「守り方」アイデア募集！

### 【主な意見・アイデア】

- ・オガグワの置物持っている家多い
- ・母島集落には由来不明のオガグワがあり、数年前にオガグワであることが判明
- ・切り株にはオオタニワタリが生えている。この雰囲気うまくPRできるとよい
- ・オガグワは堅い木のため有用材として利用されてきた。それらが使われている文化も大切。
- ・大木の実物が見られる村民向けツアーがあるとファンが集まるのでは
- ・ビジターセンターでオガグワ特別展
- ・まちなかオガグワスタンプラリー

### オガグワのおはなし

オガサワラグワは、小笠原固有の大木に生える葉の仲間です。かつては小笠原の多くの森に生育していましたが、黒褐色の光沢ある木理の美しさから、明治期に多く伐採され、高酸家具等に利用されてしまいました。現在は父島、母島、弟島の限られた森に生育する希少な木となっていますが、今も残る切り株は、その大きさを、当時の大木の変を想像できます。

村では、オガグワの森（長谷）と母島の森（静沢）に苗を植え、育てています。父島の桑ノ木山、母島の桑の木山という地名が残っているように、島民に愛され小笠原の森のシンボルとして、オガサワラグワの大木を再び見られる日が来ることを願いながら、取組を続けていきます。 令和元年 小笠原村



### オガグワストラップの作り方

- 【キットの中身】目の用途  
・紙やすり3種類（100番、400番、1000番）  
・ストラップのひも
- ① 好みの形のオガグワのかけらを選ぶ
  - ② かけらを100番の紙やすりでみがく
  - ③ ある程度みがいたら、400番の紙やすりでさらにみがく
  - ④ さらにみがいたら、1000番の紙やすりで光沢が出るまでみがく
  - ⑤ ストラップのひもを穴に通す。
- 完成！

オガグワに、もっと親しみと愛着を持ってもらおうとオガサワラグワのかけらを使ったストラップキットを作成し、参加者に配布しました。

ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました！